

# きたすま

「主が墓から取り去られました」(ヨハネ 20・2)

No. 249 (4月号)

2024年3月31日発行  
発行 カトリック北須磨教会  
〒654-0151  
神戸市須磨区北落合2-3-1

発行人 高橋 聡  
編集 広報委員会

## フランシスコ教皇の老齢期についての講話を読み始めました

高橋 聡 神父

私自身はまだ高齢者ではないにしても、あっという間に高齢者になっていくのだろうとも想像しつつ、また、日本の教会の現実としての高齢化、あるいは、日本の国全体の高齢化という現状を考えると、何かヒントはないか、そして、これをどのように考え、生きたらよいのかと思って、また、その他の必要に迫られて教皇様の講話を読むことにしました。

そこで感じたこと、考えたことを思いつくままに書いてみます。

一つ教皇様が強調しておられることだと思ったのは、若者と高齢者に断絶が起らないで欲しいということです。

現代の世の中は、世代別に人がかたまってしまって、その内部で交流があっても、その世代を超えて大切なことが伝わっていくのが、大変困難になっているのではないかと思います。すなわち世代間対話が、教皇様の推進したいことなのだと思います。そしてその中に神の祝福のみ手が働かれるであろうということを、聖書を使って説き起こしておられるようです。

高齢者は舞台から去っていく立場だというようなことをフランシスコ教皇は言います。しかし、次を担う若者に大切なことを何も残さないで去っていくことのないようにしてほしいということが講話の中から伝わってきます。若い人たちに、高齢者に耳を傾けるようにとおっしゃいますが、同時に、高齢者は、若い人、子供や

孫たちに本当に大切なことを伝えるとき生き返るのだそうです。

このことを伝えるために、聖書の人物がそのときそのときで取り上げられています。これを読みながら、わたしたちには、注意深さが求められていると感じました。小さな事であっても、そこに呼びかけやしるしを読み取ることのできる知恵のある柔軟な心の持ち主になって成長できるようわたしたちは招かれているのではないかと思います。

そして子供たち孫たち若者たちに体験を伝えることは、高齢者の務めであり、使命なのかもしれません。

それは教会の中では、教会学校のような場で子供たちを前に語ることもできますし、家や地域の中では、孫たちにごく親密に語ることもできるでしょう。

以前、毎年、若者たちを連れて、平和学習のため広島に行っていましたが、そこでだんだんお年を取られていく被爆者の証言を子どもたちと一緒に聞くようにしていたことを思い出しました。これは平和というテーマに沿った話でしたが、これに限らず、高齢者はすべ



て、何らかの形で子供たちにとっては証言者なのだと思います。

そして子供たちにとって世代の離れた人の体験談は、まったく新鮮なものとして受け取られ、神さまの祝福のうちに、新しい実をもたらす可能性を持っているのです。

私たちは、新しい祝福に向かって、自分と違う世代の人も大切にし、その話にも耳を傾け、対話をするように教皇様から励まされているのではないかと思います。



寄稿

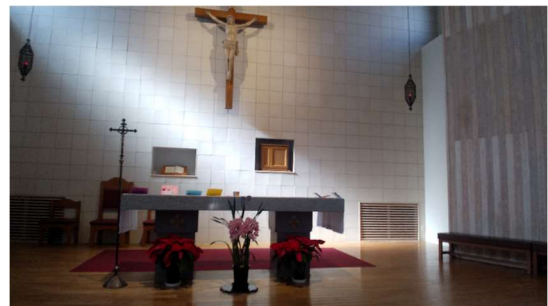
故郷の教会を訪ねて

KK

先月、私は生まれ故郷の都城に帰省し、最初に都城教会を訪問しました。阪神大震災で倒壊した下山手教会の主任神父だった高山神父はここ都城教会へ赴任し、生涯を終えられたという、私にとって特別な想いのある教会です。信徒会長と話し、教会の現状や活動について教えてもらいました。



次に私が学生時代を過ごした宮崎教会について紹介します。宮崎教会は4年前に新築されました。新しく建て替えられた教会には、神戸の中山手教会の震災後に外されたステンドグラスが使われており、聖堂内の陽光が懐かしい雰囲気醸し出していました。その日はちょうど日曜学校の準備会が行われており、一緒に学習指導をしました。若い神父とは新しい教会について話をし、昔の宮崎教会を知る信者とは懐かしい思い出を共有し、子どもたちと一緒に食事もしました。教会との特別なつながりを感じました。



(寄稿) カミノ・デ・サンティアゴ  
 ～ 巡礼の旅 (第9回) ～  
 オ・ソングン (Br.オー)



### バックパックの重さが恐れの高さ

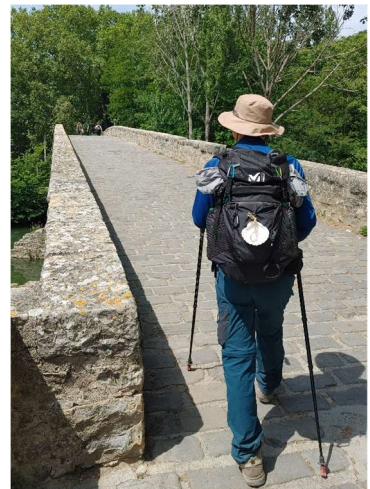
巡礼には、必要最小限のものを持っていく。必要かもしれないというものは思い切って除く。だから、バックパックにものを詰めるのは簡単ではなく、いろいろ考える。それは人生と所有物、そして信仰についての省察につながる。人生で私は何を信じ頼りにしているのか。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」(マタ 6,24) という御言葉を振り返る。だから、巡礼は準備の段階から始まっている。

道を歩くという単純な行為は、煩雑な日常から自分を内面へ導いてくれる。だから、巡礼は遠く外へ向かって出るとともに、深く内面に向かって入る道でもある。私は身に着けている服と一着の予備の服を持って行ったので、アルベルゲに着いたら毎日洗濯して乾かす必要があった。手で洗濯し、スペインの熱い眩しい日差しを浴びながら、物干しにかけると、その短い瞬間は、いろんな思いや心配、そして疲れも忘れさせてくれた。これがマインドフルネスだろう。

バックパックといえば、一人の巡礼者が思い浮かぶ。朝から雨が降り、道に迷ったとき出会ったフランス人だ。巡礼は彼にとっては休息であり、祈りであり、癒しの時間だと言った。巡礼を重ねるにつれてバックパックの大きさがどんどん小さくなっていくそうで、「バックパ

ックの重さが恐れの高さだ」と言った。この言葉は、巡礼を終えた今も、私と共にある。私が日常で背負っているバックパックの重さはどれくらいなのだろうか。

消費を最小限に抑えても、生活しているだけで物が増える。消費主義の風潮が生態環境の危機と気候危機を生む一因となっているという反省から、私はミニマリストの生活を目指して生きているが、この巡礼を通して、物を少なくすることで得られる自由と、シンプルに生きることの価値をより深く体験した。そして、より少なく所有するために神をより信頼しなければならないことも知った。そう考えると、「人の子には枕する所もない」(マタ 8,20)と言われたイエスこそ、真のミニマリストではないだろうか。結局、信仰者の生活は、神を信頼して生きることを学ぶ学校であり、巡礼の道なのだ。



2024 年 4 月 典礼奉仕者表

月日・主日	司式司祭	先唱者	聖書朗読	奉納	献金	聖体奉仕
4/7(日)10時	Fr.中川	YM	① OM	AK	IH	NS
復活節第2主日			② IN	OT	UN	HK
4/14(日)10時	Fr.高橋	YS	① IH	UT	IK	
復活節第3主日			② KS	IN	OM	
4/21(日)10時	Fr.高橋	KK	① NK	KM	KS	
復活節第4主日			② MY	KA	KF	
4/28(日)10時	Fr.中川	TH	① MN	SM	SY	HK
復活節第5主日			② KA	TA	TA	YK

\*当日を含め、担当できない時は典礼委員が調整いたします



評議会より

活動出来る人が減っている現状を考えると、維持することが無理な委員会も出て来ました。評議会や委員会という枠組みを変えて、日々の活動を続けて行けるようにしようとしています。

4月14日ミサ後に、評議会と会計監査があります。



お知らせ

◆ 総務委員会より ◆

総務委員会より、お願いです。次期総務委員長を引き受けて下さる方を探しています。ご興味がある方は、総務委員か高橋神父様までお知らせください。

◆ 地区委員会より ◆

4月21日は地区委員全員で教会清掃をします。その後、第1回地区委員会を開きます。





## 社会福祉支援基金ご報告

2023年度はコーヒー販売の収入 55,570 円が復活し、社会活動委員会からの 10 万円と皆さまのクリスマス献金 61,750 円、その他献金 3,500 円を合わせて純増は 220,820 円となりました。

そこでこれまで 1 万円に絞っていた所を 5,000 円増やして 11 箇所 22 万円の支援を行うことと致しました。支援先は変わりません。支援先と年間収支は下記のとおりです。

今後も皆さまの大きなご支援をよろしくお願いいたします。(KH 記)

支 援 先	金 額		2023年度	2022年度
1 社会活動神戸センター	50,000			
2 神戸の冬を支える会	30,000			
3 こどもの里	15,000			
4 コムニタス	15,000			
5 阪神カトリック女性の会(いのちを守る運動基金)	15,000			
6 東条湖の家(NPOノア)	15,000			
7 日本カトリック難民移住者委員会	15,000			
8 ふるさとの家	15,000			
9 AICJapan ウォーター & フードアジア	15,000			
10 釜ヶ崎・出会いの家	15,000			
11 船員司牧活動(神戸マリナーズセンター)	20,000			
合 計	220,000			
		<b>前年度繰越</b>	52,553	61,515
		北須磨教会支援金	100,000	100,000
		クリスマス献金	61,750	72,028
		コーヒー販売	55,570	0
		アルミ缶回収	0	0
		個人献金他	3,500	0
		<b>純収入計</b>	220,820	172,028
		支援金	220,000	180,000
		送金手数料他	0	990
		<b>純支出計</b>	220,000	180,990
		<b>次年度繰越</b>	53,373	52,553



### 復活祭以降のミサの充実について

皆さま、ご復活おめでとうございます。今年は8年ぶりの3月の復活祭ということで広報誌にも復活祭の様子を載せれないのが残念ですが、コロナ自粛の3年間を経て少しずつ元通りの典礼を復活させて豊かな御ミサで祝おうと努めています。

典礼と聞くと難しいものと思っておられる方も多いかもしれませんが、本来ミサは会衆と司式者が一体となって神の栄光を賛美し感謝するものです。会衆は一体となって唱え、歌い、礼をして神さまを称え、礼拝します。ミサの言葉はほとんどが本来歌われるものです。賛歌、答唱、アレルヤ唱という名がそれを表しています。

歌の中には先唱者と会衆が交し合うものがあります。答唱詩編は名の通り、詩編を歌う人と答唱を歌う会衆がいます。今は皆が歌っていますが、慣れてきたら詩編は詩編唱者が歌うようにしたいと思います。ミサの歌はうまい必要はありません、素直にのびやかな声で歌えばよいのです。

ミサの奉仕は歌のほかにも様々あります。奉納、献金、祭壇準備、オルガン etc. 皆がそれぞれ出来ることを差し出して豊かなミサを築いていきましょう。(K.H)

# マンスリースケジュール4月



日・曜日

2024

4/1 月

2 火

3 水

4 木

5 金

主日の聖書を読む会(14:15～)

6 土

ロザリオの祈り(14:00～)

**7 日 復活節第2主日 ミサ10:00～**

8 月

9 火 社会活動センター炊き出し(9:30) ミサ(10:30～) みことばを味わう集い(～12:00)  
カ障連点字勉強会(13:30～15:00)

10 水

11 木

12 金

主日の聖書を読む会(14:15～)

13 土

ロザリオの祈り(14:00～)

**14 日 復活節第3主日 ミサ10:00～**

評議会と会計監査(ミサ後)

15 月

16 火

17 水

18 木

19 金

主日の聖書を読む会(14:15～)

20 土

ロザリオの祈り(14:00～)

**21 日 復活節第4主日 ミサ10:00～**

教会清掃 地区委員全員・地区委員会(ミサ後)  
ラウダート・シ(ミサ後) 神戸地区社会活動委員会(14:00～)

22 月

23 火 ミサ(10:30～) みことばを味わう集い(～12:00) カ障連点字勉強会(13:30～15:00)

24 水

25 木

26 金

主日の聖書を読む会(14:15～)

27 土

広報委員会(10:00～) ロザリオの祈り(14:00～)

**28 日 復活節第5主日 ミサ10:00～**

29 月

30 火

5/1 水

2 木

3 金

主日の聖書を読む会(14:15～)

4 土

ロザリオの祈り(14:00～)

**5 日 復活節第6主日 ミサ10:00～**

緊急時は高橋神父(090-6329-5709)にご連絡ください。  
また、ゆるしの秘跡、病者の塗油、ご聖体をご希望の方も、いつでもご連絡ください。



カトリック北須磨教会ホームページ <http://cathkitasuma.web.fc2.com>